事例No.	3005
公表年度	R5
団体の属性	中核市
団体名	群馬県高崎市

事例区分	行政改革

タグ	・福祉・介護 ・教育・子育て ・組織改革

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

ヤングケアラー支援（「ヤングケアラーSOS」（サポーター派遣））

出典

令和5年度調査研究：先進事例調査研究事業

〇ヤングケアラー支援（「ヤングケアラーSOS」（サポーター派遣））

・取組団体：群馬県高崎市

・取組内容：「ヤングケアラーSOS」（サポーター派遣）、ヤングケアラーの認知度向上のための取組

・推進体制（令和５年度）：係長１名、職員４名、スクールソーシャルワーカー１名、相談員２名 計８名

・事業予算（令和５年度）：予算　9,765 万円

（財源）一般財源

１．群馬県高崎市の概要

人口：368,154 人（令和５年 10 月 31 日時点）

職員数（一般行政部門）：2,145 人（令和４年４月１日時点）

総面積：459.16 ㎢

図表１　高崎市の位置図



出所：高崎市ホームページ

２．取組の背景・目的・内容

（１）　取組の背景・目的

多くの自治体でヤングケアラーの発見と支援が課題となっているが、高崎市では、令和４年４月、教育委員会学校教育課にヤングケアラー支援担当が新設され、相談窓口かつ支援の中心的役割を担っている。ヤングケアラー支援は、関係者同士の連携・協力が重要であると考えら

れているが、ヤングケアラー支援担当は、ヤングケアラーの発見や調査、児童・生徒や保護者への説明等で、学校とつながりを持っている。加えて、要対協（要保護児童対策地域協議会）とは、実務者会議に担当者が参加して、情報共有を行っている。

（２）　取組の内容

①　「ヤングケアラーSOS」の取組

ヤングケアラーの家事・介護等の負担軽減を図ることを目的に、令和４年９月から該当する家庭に、原則２名のサポーターを無料で派遣している。対象は、市内在住の中学生および高校生（要望があれば小学生も対象）で、利用時間は、１日２時間、週２日が上限となっている。支援内容は、掃除、洗濯、調理等の家事の支援、きょうだいの世話、家族の介護等である。また、サポーター派遣の実績は、派遣開始から令和５年 10 月 31 日現在、28 件である。

支援開始までのプロセスは、以下のとおりである。はじめに、個別にワーキングチームを立ち上げ、子ども一人一人に見合った支援、アプローチ方法等を検討する。そして、ワーキングチームで検討した支援策を、有識者で構成される、ヤングケアラー支援推進委員会で審議し、支援内容を決定する。ヤングケアラー支援推進委員会は、原則月１回開催されるが、必要に応じて臨時で開かれる場合もある。

②　ヤングケアラーの認知度向上のための取組

ヤングケアラーの認知度向上のために、市では主に二つの取組も実施している。第一に、学校、民生委員等関係機関の会議等に出向いて、ヤングケアラーについての周知を行っている。第二に、広報やホームページも活用することで、認知度の向上に努めている。

３．成果・課題

（１）　成果

「ヤングケアラーSOS」を利用している子どもから、「家事をしない時間ができて楽になった。」、「ご飯が美味しい。」といった声が寄せられている。一方、保護者からは、「子どもの笑顔が見られるようになり嬉しい。」という感想も見られる。このように、「ヤングケアラーSOS」の取組が、ヤングケアラーの負担軽減に一役買っている様子が伺える。

（２）　課題

課題として、ヤングケアラーを発見しても、「他人が家に入って来てほしくない」などと保護者や子どもに支援を拒まれるケースが少なくない点が挙げられる。高崎市では、このように支援を拒まれた時に、どのようにその必要性を伝えることができるかがポイントであると考えら

れている。また、本事業終了後の支援、例えば、福祉施策等についても考慮した支援が必要であると認識されている。

【参考】

高崎市ホームページ

・市の概要

https://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/2013120900097/

・職員の状況

https://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/2013121900898/

・人口及び世帯数

https://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/2013121100182/